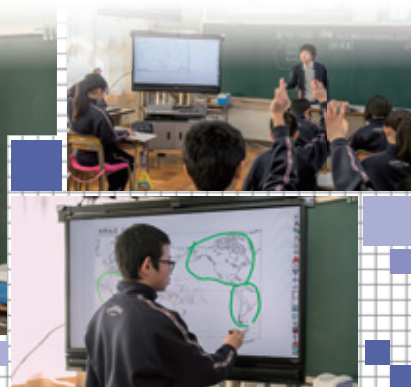


導入事例
てれたっち失敗を恐れず積極的になれるから、発表スキルがしっかり身に付く！
アクティブラーニングの学習効果をさらに高める「てれたっち」

岐阜県の中津川市立落合中学校では、アクティブラーニングに力を入れた授業を行う中で、「てれたっち」を大いに活用されています。同校で社会科を教える吉村晃承先生に、生徒の積極性を後押しし、対話を活性化させる「てれたっち」の効果について伺いました。

※先生のご紹介、学校での設置状況などは取材当時のものです。



※ディスプレイは別売りです。

導入商品

外付け型タッチ化ユニット
「てれたっち」

DA-TOUCH / WB

議論や説明といった、理解を深めるための活動に生きる「てれたっち」

教育方針としてアクティブラーニングを重視されているそうですが、「てれたっち」はどのように役立ちますか。

吉岡先生:グループワークでは黒板をあまり使わず、「話し合う」「聞き合う」「説明し合う」ことを大切にしています。導入部で教科書や資料集から課題となるキーワードを選び、「てれたっち」で関連する映像を視聴し、その後、少人数のグループで調査・発表を行います。発表時には内容に合わせて私が「てれたっち」で補足資料を表示したり、質問を重ねるなどしながら、皆で掘り下げていきます。

アクティブラーニングを重視した授業では、板書はあまり使われないんですね。

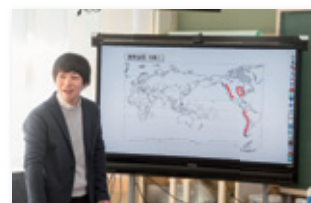
吉岡先生:板書は必ずしも必要ではないと考えています。板書に頼りすぎると、「自分で考えなくても板書さえとればいい」という思考に陥りがちです。これではどうい対話的とは言えません。本来、板書をとることは目的ではなく、資料を使って自分で説明できることこそが「理解」だと思えます。重要なのは、生徒一人ひとりが理解を深められること。そのために、目的に応じたツールの使い分けをしています。大まかに言うと、黒板、プリントや拡大コピーなどの紙媒体、それから「てれたっち」ですね。黒板はノートをとるためではなく、課題の書き出しやまとめの記入に使用します。拡大コピーも活用しています。紙の良い点は、消えずに残ることです。生徒の意識に確実に残したいものについては、目に付くところに紙媒体で常時掲示しています。そして、思考の材料となるものは「てれたっち」ですね。「てれたっち」は議論や説明といった、理解を深めるための活動に有効なツールです。「てれたっち」を使って導いたことを足がかりに、今度は黒板にまとめていきます。こうした一連の流れを通じて学習することが、理解につながると考えています。



自分で説明できてこそ「理解」

発表の時には、生徒の皆さんが「てれたっち」を使って積極的に説明していましたね。

吉岡先生:発表で使う資料は、生徒自身に探させることもあります。すると、「こんなことがわかった!」と目を輝かせて様々なものを見つけてきます。自分の主張に説得力を持たせるために資料を活用するというのを、まさに実感を持って学んでもらっています。生徒たちが将来プレゼンテーションをすることがあったら、「てれたっち」で学んだ発表のスキルがきっと役に立ってくれるでしょう。



白地図に直接書き込み

「てれたっち」は、まさに対話的な学びのために必要としていたもの

授業の準備といった、先生方の業務の軽減に「てれたっち」は貢献できたでしょうか。

吉岡先生:紙資料のうち、電子化して置き換え可能なものはなるべくスキャンして蓄積しています。従来のディスプレイには画像拡大を簡単に行う機能がなく、細部を見たい場合には、元画像に加えて拡大サイズを用意していました。これも「てれたっち」で非常に楽になりました。いくらでも拡大できますし、見せるべき場所をその場で変えて柔軟な授業をすることができます。

今後の活用について、ヴィジョンなどがありましたらお聞かせください。

吉岡先生:情報のあふれる時代だからこそ、生徒にはよく見極める力をつけて欲しいと思っています。そのためにはアクティブラーニングがよい役割を果たしますし、その学習効果を高めるために「てれたっち」が活躍します。皆で同じ画面を見て、生徒も前に出て操作しながら説明できる「てれたっち」は、まさに対話的な学びのスタイルで必要としていたもの。これからもぜひ活用を続けていきたいです。



集まって意見を出し合うことも



取材にご協力いただいた先生

中津川市立落合中学校
吉村 晃承 先生

CLIENT DATA

導入学校 / 中津川市立落合中学校
所在地 / 岐阜県中津川市
設立 / 1947年